

石巻市立石巻中学校

1 東日本大震災発生直後の状況

3月11日(金)

2時間目は同窓会入会式。5校時に3年生は最後の学活を終え、14時過ぎに下校。在校生が卒業式の会場準備、教室の飾り付け等を行っている。

14時46分。地震発生。すぐに校内放送で身の安全を守ることを放送。2度目の校内放送の途中で停電。地震がおさまった後、生徒に校庭に避難するよう指示を出す。各階の生徒避難指示と火器の点検。残っている生徒がいないか搜索。外で名簿をもち全クラス担任がチェックする。

14時49分、気象庁が大津波警報を発令、その後3時頃には防災無線で大津波警報が鳴り響く。校庭にはどんどん避難者が来る。

15時20分頃、すでに大勢の人が校庭に避難。校庭から見える道路は車ですでに大渋滞。生徒を保護者が何人か迎えに来る。この時点で、保護者が迎えに来るまで生徒の帰宅はなしの指示が出る。

雪が降り止まず、ブルーシートを頭の上に被る。雪を凌ぐためにテントを10梁立てる。体育館は安全が確認できず。

雪はますます強くなり、16時を過ぎて、避難者を体育館に。600人は超えていた。

18時過ぎ、市役所のOBの方が声を掛け、教員を集め、取り仕切ってくれることを申し出る。

始めに学校のラジカセで情報収集。生徒を使ってメモを取らせ、新しい情報は本部に届けるよう指示。次に避難者を8~12個に区分けして経路を確保、把握しやすくする。

18時過ぎ。携帯はまったく通話不能。メールが何とか届く程度。

19時過ぎに、職員室に一度全員集まる。校長から、現状の確認、避難所として運営しなければいけないこと、そのため帰宅せずに泊まり、立ち番や生徒管理をしてほしいことが話される。

20時を過ぎる。この頃から、緊急地震速報が流れなくなった。この日の最高気温は5度くらい。生徒も寒さに震え、段ボール等で凌ぐ。

21時を過ぎると体育館内も静かになってくる。この時間になっても避難者は増える。多分1000人は超えていた。具合の悪い老人は保健室へ。それ以外は何とか体育館のステージに運ぶ。職員

室では、ロウソクの明かりをつけて待機していた。トイレまでの道をロウソクで照らそうということになり、皿にロウソクを立てたりしながら廊下やトイレ内に立てる。

3月12日(土)

0時10分過ぎ、職員召集。「市女高が火災になる危険がある。そのため今から市女高に避難していた人が大勢こっちに来るそうだ。」「600人くる。」体育館に入れるのはもう無理で、教室に入れるため各教室の机をどけ始めた。特別教室以外の部屋をあけた。その後は、避難してきた人の誘導。

3時過ぎ。避難者の移動も落ち着く。体育館の入り口で絶え間なく来る避難者への対応をする。

朝6時に職員室に集合。生徒全員の安否確認、保護者への受け渡しが最優先との指示。次に避難者への対応。市の職員はいつ来るかわからないので、市役所のOBの方とともに体制づくりをすることに。

その後、校舎、体育館、校庭のゴミ拾い。校門近くで車の交通整理、避難してくる人の案内をしていた。生徒の親が朝から迎えに来る。または、近所の生徒を家で預かると言って申し出てくれる保護者もいた。10時過ぎにはあっという間に生徒数も減り、30人もいかなかったと思う。

7時30分過ぎ、近所の日和山神社近くに自宅のある生徒を、家まで送る。日和山神社のある高台に向かった。そこには、下を見下ろし、泣いている人、膝を落としてうずくまっている人、言葉を失ってただ茫然と眺めている人がいた。そこから南浜方面を見下ろした。そこには言葉にできない光景が見えた。(写真は7:55撮影)



10時過ぎくらいに、市役所の人々が到着。腰付近まで水につかりながら、わずかな食料とペットボトルを持ってきた。食べ物はチョコなどのお菓子とカップラーメンがほとんど。初めての配給は、ソーセージとビスケットを2人で分ける。飲み物は、3~4人で一本ずつとなり、家族単位で配った。生徒もグループを作り、それぞれに配った。体育館では、昨日に引き続き体育館内の区分けをする。一晩でさらに人数が増えていた。

10時過ぎに医者から、「緊急患者のために救護ヘリが来る。」と連絡が入る。急いで校庭にヘリポートを作る。交代で空を見上げていた。

何台も上を通った16時過ぎ、校庭の上でヘリが旋回した。三人の患者を外に連れてきたが、一度に二人までしか運べず、折り返し戻ってくるようになった。ヘリが飛んでから戻ってくるまでが早かった。わずか15分ほど。



学校の目の前の浄水場で水の配給を始めてくれた。20時には閉門。

夕方になると、三角茶屋近くの林豆腐屋が豆腐を千丁持ってきてくれた。数が足りなかったので二人で一丁のところもあった。本部の人や我々教員までは回らなかった。

避難生活2日目夜となると、生徒も不安を隠せない。いつ帰れるのだろう、と声を漏らす。携帯はすっかり不通状態。大きい余震が何度も来たが、緊急地震速報は鳴らず。

この日の夜は、重症患者をヘリコプターが迎えにくるという情報があり、昼間に作ったヘリポートを車が来ないように交代しながら見張って一晚過ごした。結局その夜にヘリは来なかった。

3月13日(日)

朝5時過ぎにはみんな起き出す。先生方で手分けして山を下って浸水状況を確認しに行った。市役所前はまだ水が引かない。大街道は水は残っているが、歩いてわたれそう。門脇方面はほとんど建物が残っていない。山下駅付近はまだ膝上まで浸水している。しかし、線路を渡って移動ができそう。アイトピア通りや中瀬の方は水が残っているし、瓦礫の量がすごい。学区の地図に手作りの浸水マップを作った。

同じころ、学校に残っている先生方で、体育館のブロック毎や各教室にいる人を確認するため、紙に名簿を書いてもらう。体育館入り口や校舎入り口には、安否確認の紙が大量に貼られている。この日から校門に順番で立つことにした。先生方の車がすぐにでも動かせるように、他の車は校庭に移動してもらった。

この日、幾人かの先生も自宅に帰宅する。ある先生は矢本の赤井まで歩いて帰った。腰下まで水につかりながら山下駅にたどり着き、線路の上を

歩いてずっと帰った。

午後4時を過ぎると暗くなり始める。未だ支援物資は届かない。この日の夕食も、林家さんの豆腐をいただいた。醤油ももらい、味をつけながら食べていた。生徒は一人一丁ずつ食べられたと思う。教員は、パットにいくつかあけて、それをみんなであついで食べた。

この日も、夜になっても人は来る。夜中まで見回りをしながら、生徒と話したり、寝かせつけたり、おじいさんの手を引いてトイレに連れて行ったりした。

3月14日(月)

震災4日目。この日の朝も早く、5時前に活動している人が多い。毎朝のゴミ拾いの成果か、たばこのポイ捨ては少なくなった。

この日の時点で、まだ親が迎えに来られない生徒が10名ほどいた。朝から、生徒に親の名前と仕事場所、携帯番号などをメモして探すことにした。許可を得て、車で行ける大街道、蛇田方面の避難所を回った。途中、駐車場の広いパチンコ屋で、自衛隊がたくさんいたのを覚えている。



各避難所は状態は様々。いくつかの避難所を回ったが、生徒の親の名前は見つけれなかった。午後2時過ぎに着いたと思う。そうしたら突然、自衛隊の車が着いた。少しの食料と水を於いて行ってくれたが、全員に配るには少なすぎ、職員室に一時保管。校舎の高架水槽は水が入っているものの、配水管が壊れ使用できず。トイレの水は池の水と、足りなくなったプールの水をバケツリレーして池に足した。

夕方に、教室ごとにリーダーを決め、リーダー会議をこの日から実施。

その頃、支援物資で大量のパンと野菜ジュースが届き、配付する。

午後8時過ぎ、予告もなく電気が復旧。避難所のため、周囲の家より早く復旧した。そのため、近所の自宅避難者も学校に来て、携帯の充電を始める。午後10時に消灯することを放送し、消灯後は交代で見回りを行う。

3月15日（火）



避難者の数は大体落ちつき、部屋も固定してくる。また、避難者で自治活動が始まる。

玄関近くのコンセント付近に充電場所を設置。互いに譲り合いながら使うように張り紙をする。朝から職員室に電気が使えないと苦情が多数くる。原因は、いくつもの部屋で、電気ストーブ、電気ポッドなどを使ったこと。何回もブレーカーを入れに行き、使用を控えるように話すが、しばらくの間は文句を言われ、そしてブレーカーが落ちるの連続。落ち着くまで3日くらいかかったと思う。

校門で立ち当番をしながら、自衛隊や支援物資の車が来れば誘導し、一般の方が来れば校庭に移動するように案内する。まだ、他の避難所から、知人を探して歩いてくる人がたくさんいた。

3月16日（水）

夕方に、池の水を入れにタンクローリーが古川方面来る。コンクリート車だったため、水がアルカリ性になり、小魚が大量に死んでしまう。



3月24日（木）

学校に炊き出し隊がくる。



3月29日（火）

石巻小学校の体育館を借りて、卒業式を行う。



そのまま離任式を行い、卒業生は中学校に戻る。そして、避難所である体育館に行き、お別れと励まし、感謝の意を込めて記念合唱を行う。



4月22日

石巻小学校体育館を借り、入学式を行う。



この日から新学期が始まる。この時点で避難者は全て体育館に入れる人数になっていた。

一時期、避難者は2000人を超えた。学校再開までは、復旧や清掃が大変であった。

5月9日

石巻市立湊中学校が、校舎が被災したため使用できず、石巻中学校校舎の一部を使い、学ぶこととなる。そのときの歓迎式の様子。

